

転勤という時期を迎えての謝辞

2025 年 1 月 19 日
2022 年 10 月 27 日作成
M. Fujii

温かい言葉など頂戴したりしており、感謝いたします。

失敗もそして小さな成功も、皆様にご迷惑をお掛けしたことも多々ございましたが、曲がりなりにも勤め続けることが出来、清々しい気持ちで一杯です。そして、興味を覚えたところにだけ非常に細かく対処し、相手にしたら面倒で一種ラディカルな私が一人前の会社員としてやってこられたのも、ひとえに皆様のご支援、ご尽力の賜物と感謝の念で一杯です。

まだまだ気力、体力は若い人に負けないと自負しております。結石持ちで左腰の神経を痛めている私ですが、幸いなことにまだ老眼になっておらず、IQも維持しております。今後は左腰付近より下の部分の体調管理にも努めていきます。

二足の草鞋の片方の学究生活をはじめ、これからも様々な事に取り組んでいく所存であります。現在4つの学会の正会員ですが、研究者としても社会貢献出来るよう努力したいと思います。

私のここのところ、しばしば思うことを挙げておきます。

I. 「鉄道 150 周年。本当に凄いと思うのは、1872 年 10 月 14 日の新橋-横浜間の営業運転以降、日本国内で鉄道（営業ベース）が動かなかった日は 1 日もないと言うことです。つまり、毎日、日本中のどこかで鉄道は動いていたのです。1945 年 8 月 15 日の第二次世界大戦の敗戦日でさえ鉄道は動いていたのです。これは物凄いことです。このことこそが、150 年の大事な意義だと思います。」

Ⅱ.「学び続けることに妥協無く、真理の追求は不断のテーマ。勉強は一つの習慣とします。たとえ、上手くいかなくても取り組み、取り組むことで生きていく自信につながると考えます。0点でもペンを取り、握り取り組もうとする姿勢の堅持が全てです。」

Ⅲ.「自身がつまらないのは、対峙しない（つまらないことに立ち向かわないといけない）自分や、駄目だと分かっていることから、逃げているからです。自分に嘘をついて生きていては、真剣に大事なことを考えられません。

よって、正直に自身に対峙し、自分の中の敵（嘘をついている自身、正直に生きていない一部分の自身）を倒さなくてはなりません。」

Ⅳ. 弥山の弘法大師「不滅の火」

八〇六年、弘法大師が広島県にある世界遺産、厳島神社の後ろにそびえる弥山（“みせん”と呼びます。）山頂で百日間に及ぶ求聞持（ぐもんじ）の秘法を修して以降、約千二百十五年ものあいだ今日まで途絶えることなく、霊火が燃え続けています。弥山「不滅の火」です。

また、比叡山にある「不滅の法灯（ほうとう）」は、天台宗を開いた最澄（さいちょう）の時代に始まり、以来一二〇〇年以上にわたって途絶えることなく灯っています。戦国時代に本山のものは消えたことがありますが、分灯していたことが幸いし、引き続き法灯を守り続けております。

「不滅の火」を消さないように、毎日、対応している僧侶達の緊張感に考えを及ぼす必要があります。光は、ただ漫然と守られている訳ではなく、生きた人から生きた人に脈々と受け継がれているからあるのです。

ちょっとした油断が命取りになり、油断すると、火は消えてしまいます。自らの心を清め、心を訓練しなければいけません。

大切なのは長い期間をかけて仏や神の教えと向き合い、教えを揺るぎないものとして身につけることです。教えを日常の生活に密着させ、生き方に反映させることが何より大切なことです。そのためには途絶えることのない「不滅の火」のように教えと向き合う、それは長

い期間の中での繰り返しの結果として、教えの効果が現れるからです。修行とは繰り返すこと。油断なく修行いたすことにいたしましょう。合掌。

皆様、誠にありがとうございました。これからも頑張りますので、よろしくお願いいたします。

以上